

涙がいつもあふれて困っています

涙がいつもあふれてくる「流涙」(涙目)で悩んでいる人は、涙道閉塞症かもしれない。目頭にある涙の排水路「涙道」がふさがり、正常な排水ができなくなっている状態だ。涙道閉塞症の治療を多く手掛けている白神眼科医院(高松市)の村田晶子理事長に詳しく聞いた。

涙道の詰まりが原因かも

■涙目の仕組みは。

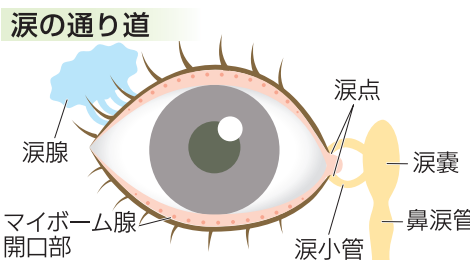
涙は、目尻にある「涙点」から分泌され、眼球を保護したり、栄養補給や消毒なども担っている。涙がたまるとまぶたが瞬きし、目頭にある穴から涙道へ涙を押し流し、鼻腔へと排出する。この涙道が狭くなったり、詰まったりすると、涙が正常に排水されずにあふれる状態になる。

また、涙の質が乾きやすいため、目を潤そと

反射で涙がどんどん分泌されて、涙目になる人もいる。涙があふれてうつとつしい、視界がぼやけるなどのほか、目の周りの皮膚がたれたり切れたりするなど症状は似ているが、原因がまったく違うので見極めが必要だ。

■閉塞の原因と診断、治療は。

加齢によるものほか、涙囊炎や結膜炎などの炎症、鼻の病気、長期間さしている点眼薬の影響、抗がん剤の副作用など、原因はさまざま。患者は高齢者、女性に多い。閉塞が疑われるときには、涙点から生理食塩水

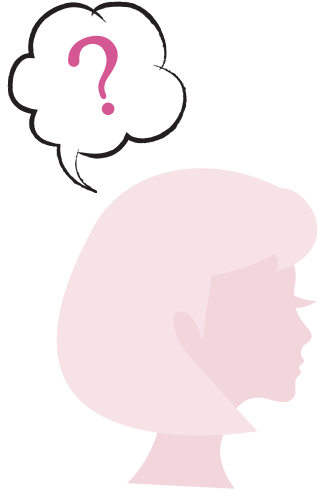


挿入して涙の排水路を確保する方法。涙道は外からは見えないが、涙道内視鏡で確認しながら挿入を的確に行う。局所麻酔で行い、時間は片眼で15分ほどで、日帰りが可能だ。術後は2週間に1度ほど通院してもらい、水の通りを確かめながら、2〜3カ月後に涙道が再建されたらチューブを抜去する。チューブは外からはほとんど見えなく、日常生活にも支障がない。

■読者にメッセージを。涙目は、原因を突き止めれば多くは治療できる。年齢のせいなどと我慢せずに受診してほしい。また、一部の抗がん剤の副作用で起きる涙道閉塞は、対処が遅れると治療が難しくなる。抗がん剤治療中に涙が増えたと感じる場合は、すぐ涙道に詳しい専門医に診てもらってほしい。

を流して、鼻まで通っているか調べる。通水がないときは、専用のごく細かい「涙道内視鏡」を使って詰まっている部分をより詳しく調べる。涙道閉塞の主な治療は、涙点からチューブを挿入して涙の通り道を開通させる。涙は水分の上に、脂分の膜をのせることで乾きにくくなっているが、まぶたにある脂分の分泌腺

内視鏡治療で改善できる



今日のドクターは…

村田 晶子 先生

白神眼科医院理事長



「収納」「家計」

32行

むらた・あきこ 1996年香川医科大学(現香川大医学部)卒。さぬき市民病院、三豊総合病院などを経て白神眼科医院理事長。香川大学医学部医学科臨床教授(兼任)。日本眼科学会認定眼科専門医、JPSA公認障がい者スポーツ医など。